

認定こども園〇〇〇園(保育所共通) 6月 個別指導案

園長	主幹 (教頭・主任)	担任

園児名	Aくん(8か月)		生年月日	平成00年10月12日	担任名	
個別指導案	前月の園児の様子	乳児 三つの視点	今月のねらいと内容	環境構成	援助・配慮事項	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育教諭(保育士)等と目が合うと微笑んだり、あやされると声を出して笑う。 ● 離乳食中期食材が増え、食べる量も増えた。 ● ミルクはあまり欲しがらなくなった。 ● 「マンマ」、「アブブ」など反復的な喃語を発する。 ● お座りで遊んだり、腹這いになり玩具に手を伸ばしたり、ずり這いで移動する。 	健やかに伸び伸びと育つ	<ul style="list-style-type: none"> ● 楽しい雰囲気の中で様々な食材の味、形状に慣れる。 ● はいはいが上手になり、移動、興味の範囲が広がる。 ● 睡眠リズムがだんだんできてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ゆったりとした雰囲気の中で、関わりがもてるようにする。 ● 移動範囲が広がるので安全に遊べるようにする。 ● 離乳食の形状は舌で簡単につぶせる固さで、少し粒や形が残っているようにしていく。 ● 自分でも手に取って開いて楽しめるように絵本を配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 触れ合い遊びを十分にし、発声や笑顔を引き出すように関わる。 ● 泣いたり、不安がある時は抱っこ、おんぶで情緒の安定をはかる。 ● 保育教諭(保育士)等からの話し掛けで食事の時間が楽しくなるようになる。 ● 好きな玩具、保育教諭(保育士)等の声掛けなどで移動運動が十分にできるようになる。 ● 梅雨期には室内で遊ぶ事が多くなるので、子ども達が十分に体を動かせるような安全なスペースを確保する。 ● 保育室内の清潔に配慮し、玩具の洗浄、消毒をこまめに行う。 ● 子ども達一人一人の睡眠のリズムが違うので安心してゆっくり眠れる環境をつくる。 	
		身近な人と気持ちが通じ合う	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育教諭(保育士)等と関わって遊ぶことを楽しみ、満足して過ごす。 ● 安定した環境の中で、探索活動が豊かになる。 ● 「う～ん」「い～!」と不快感を体を反らして訴える。 			
		身近なものに関わり感性が育つ	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育教諭(保育士)等と絵本や手遊びを楽しむ。 ● 手を伸ばして玩具をつかみ、口でなめまわして確かめる。 			
子ども・子育ての支援(保護者支援)	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染症において注意すべきことをその都度伝え、共通理解のもとで子どもの健康を守る。 ● 気温差が激しく、また、汗をかきやすいので子どもが活動しやすい着替えを多めに準備してもらおう。 ● 離乳食の食材が増えていくので連絡を取り合い進めていくようにする。 			月の評価と反省・自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 絵本や手遊びを取り入れ積極的に関わったことで、保育教諭(保育士)等の言葉掛けにも反応し、喃語ではあるが応答的に触れ合いができるようになった。 ● 行動範囲も広がり目が離せないときもあるので、安全面に十分に注意をし本児の探索活動が豊かになる様に環境を整えていきたい。 	

園長	主幹(教頭・主任)	担任

認定こども園〇〇〇園(保育所共通) 10月 個別指導案

園児名	Bさん(1歳6か月)		生年月日	平成00年4月12日	担任名	
個別指導案	前月の園児の様子	満1歳～満3歳未満の5領域	今月のねらいと内容	環境構成	援助・配慮事項	
	<ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭(保育士)等と一緒にままごと、ブロックなどの玩具を使い、遊びながら不安な気持ちを受け止めてもらい関わることで、安心して過ごしていた。 ●不安で特定の保育教諭(保育士)を求めて泣くこともあったが、十分に受け止め、本児の思いに寄り添うことで、しだいに安定していった。 ●興味、関心のあるものに対して危険を認識できず行動してしまうこともあるので、安全に配慮して見守っていた。 	健康	<ul style="list-style-type: none"> ●スプーン、フォークを使って楽しく食事をする。 ●手づかみで食べることから徐々にスプーン、フォークを使うことへ移行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●除去食がある際には他児と食材が混在しないように本児の座る位置を離す。 ●スプーン、フォークを使って食べられるようさりげなく促していく。 ●散歩や戸外活動では道端や広場に危険な物がないか確認する。 ●興味関心をもてる曲や動きに配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●除去食やアレルギー源について食事のたびに確認し、誤食のないようにする。 ●自分で食べる意欲を削がないよう、さりげなく介助を心掛けていく。 ●散歩や戸外活動では探索活動が十分行えるよう見守ったり、子ども自身が不思議を発見できるように言葉掛けに配慮していく。 ●保育教諭(保育士)自身が曲に合わせ大きな身振りをして見せ、楽しさを伝えていく。 	
		人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ●食前の身支度と挨拶を保育者と一緒にに行く。 ●簡単な手遊びや絵本を喜んでみる。 			
		環境	<ul style="list-style-type: none"> ●散歩を通して梅雨ならではの動植物に興味を示す。 ●戸外遊びを通して自然に触れ、楽しむ。 			
		言葉	<ul style="list-style-type: none"> ●生活に必要な言葉がわかり、まねて言う。 ●保育教諭(保育士)等の簡単な言葉を理解する。 			
		表現	<ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭(保育士)等や友だちと一緒に体を動かし運動遊びやリズムを楽しむ。散歩や戸外活動を楽しむ。 			
子育ての支援(保護者支援)	<ul style="list-style-type: none"> ●天候や気温の変化に対応できるように調節しやすい衣服や着替えを多めに用意してもらう。 ●体調によって本児のアレルギー源ではないとされる食材でも発疹が見られたりするので、体調の変化を送迎時に詳しく伝え合う。 			月の評価と反省・自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ●発達に伴い活発化する行動の危険性を重視するあまり、本児の満足する環境構成ができなかったことを反省する。 	